

3月29日(月)

## つらいときでも

聖書朗読 詩篇 42

鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいは、神を、生ける神を求めて、渇いています。 詩篇42：1

詩篇42篇には、私たちみんなが、人生において、ある困難に差し掛かったとき、のことが描かれています。例えば、この箇所では、なぜあなたの神はあなたを絶望させたのですか？なぜあなたの神はあなたにそんなに酷いことが起こることをお許しになったのでしょうかと問う人々を描いています。私たちは絶望し、時には万事休すと思うかもしれません。このようなことが起こると、私たちは自信を失っていきます。

一方、そのような状況にある私たちに、詩篇の作者は、全く私別の前向きな考えを与えてくれます。その困難な時にこそ、多くの人たちと一緒に、喜びと感謝の声をあげて、神の家へと歩いて行った時のことを思い出ささいと。神様がそこにいらっしやることを教えてくれる大自然の美しさに目を留めて、神様を思い起こしなさいと言っているのです。

「神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の救い、私の神を。」(詩篇42：11)。神を知る私たちの人生においても大変なこと、辛いことは起こります。でもそうなったとしても、私が変わらず神様を信頼していることを、まわりの人たちに示すことを神様は私たちに望んでおられます。そして、今の大変な状況を超えたところに、はるかにいいことがあるという希望を、私たちは確信しているはずです。ですから、鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神様を慕い求め、神様と共に歩んで行きましょう。

讃美歌 鹿のように

祈り 困難が洪水のように私を押し流しているように思うとき、あなたが私のことを愛してくださり、希望を与えてくださることを覚えることができるように助けてください。あなたの子どものひとりとして、あなたを信頼して、たたえることができるように助けてください。

私を強めてくださるキリストを通して。アーメン。

スタッフオード・ノース

## 今日の日

2021年3月29日～4月4日

翻訳 村越克子  
中野雄貴  
浦部言

編集 野口恵美子

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

3月30日 (火)

## 静寂のとき

聖書朗読 詩篇46

火の後に、かすかな細い声があった。

I列王記 19:21

「文明社会」から離れて、父親と一緒に狩りや探検をして過ごしたことは、私のお気に入りの思い出の一つです。その時、父親は私に何度も繰り返さう言いました。「静かに」と。とても簡単なことでした。じっと静かにしていなければ、森の中に何がいるのか、その動物たちがどんな状況で何をしているのかを体験することはできないのです。

今の世の中では、熱狂的な早いペースや過密スケジュールが当たり前であり、不安や心配、または早急な期待が私たちを悩ませます。そんな中において、神様は私たちに、主を求め、静かに忍耐強くあるようにと言われます。そうすれば神様が私たちと共にいてくださることがわかります。

あらゆる状況において、つまりどんな時にも、神様が共にいてくださることを覚えることは、あらゆる外面上の出来事に関係なく、私たちの内面を静まらせてくれます。

この世の困難から逃れることはできませんが、神様の最終的な勝利は確かです。私は父親の教えの重要性がわかるようになりました。しかし、天の父なる神様のメッセージは、父親のメッセージを超えたものです。神様の御前で敬虔に静まり、神様の御声に耳を傾けることは、私たちを平安と真理で満たしてくれます。神様はそこにおられます。私たちが静まる時、私たちの心は備えられ、神様のお声を聴くことが出来るのです。

讃美歌 517

祈り 親愛なる主よ。この世のことを後回しにして、静けさの中に、あなたのご臨在、御力、愛を求め見つけることができるように助けてください。私たちがそこに見出す安らぎを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ランディ・ロバーツ  
ニューメキシコ州、グランツ

3月31日 (水)

## あなたの言葉

聖書朗読 詩篇52:1~7

エフライムよ。わたしはどうして、あなたを引き渡すことができるだろうか。イスラエルよ。どうしてあなたを見捨てることができるだろうか。

ホセア 11:8

写真は1000語の言葉に匹敵するかもしれませんが、しかし、言葉は諸刃の剣になりえます。ほんの二言三言のあざける言葉や悪口が、人の魂を引き裂いたり、精神を押しつぶしたりするのです。あなたを傷つけたいと思っている人や、あなたの幸福なんてどうでもいいと思っている人が、あなたを押しつぶすには、意地悪な非難の言葉を発するだけでいいのです。そういう言葉は、人の人生を台無しにすることさえできてしまうのです。あざけりや悪口は、神様とは全く相容れないものです。

そういった言葉とは対照的に、神様の私たちへのみことばは救いの言葉であり、憐れみ深く、私たちの人生において、大切なことを伝えてくれるものです。みことばは私たちに力を与え、励まします。絶望から私たちを救い上げ、希望へと移してくれます。神様の裁きが必要であるとされた場合であっても、みことばは希望の回復をも示して下さい。神様は私たちをお見捨てになりません。神様のあわれみは温かく優しさに満ちています。

このように、私たちが親切で人を励ます優しい言葉を使い、役に立つ言葉を発しているときには、人生を建て上げることに、神様とパートナーを組んでいるのです。

讃美歌 II80

祈り 私たちのお父様。今日、あなたのパートナーとなって、あなたのおそばを歩き、ご一緒にすべての良いことを奨励することができますように。私の言葉が親切で、人の助けとなり、優しさに満ちたものとなりますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

マイク・サンダース  
アイダホ州、ボイジー

4月1日(木)

## 神様のお約束

聖書朗読 詩篇 118:8~14

主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔をもたらすすべてのものを、私たちに与えました。

Ⅱペテロ 1:3

人生とはやっかいなもので、無限の勇氣と多くの忍耐力を要します。人生とは常にそうだったものです。

ダビデの神様との関係は独特なものでした。ダビデはたった一人で石ひとつ持って羊の群れを守ってきたことで、勇氣と神様に信頼することを学びました。父親のエッサイに言われた通り、エラの谷にいる兄たちの安否を確認しに行くと、巨人のゴリアテという名前の戦士がペリシテ人の陣地から上ってきたところで、イスラエル軍は恐れおののいていました。

末っ子のダビデが、神様が共にいて下されば、ゴリアテを倒すことができると言う、兄たちはダビデの生意気な言動を思いとどまらせようとしていました。しかし、ダビデは思いとどまりませんでした。神様のご加護で問題を解決できると言い張りしました。ついには、サウル王もダビデを戦場にやり、石投げで放ったたった一つの石で、ゴリアテを倒しました。ダビデはその功績を主に帰しました。

私たちは霊的戦いの中にいます。第一ペテロ5章8節から9節は私たちに警告しています。悪魔が私たちをクリスチャン生活から引き離そうとして、吼えたける獅子のように歩き回っているのを警戒しなさいと。またペテロ第二の手紙では、私たちは、神様がいつでも私たちを助けてくださるということをお約束して下さっていることを知ります。神様のゆるぎない愛はなんてすばらしいのでしょうか！ サウル王は自分の軍はゴリアテに歯が立たないと思っていましたが、神様は私たちを無力のままにしておかれませんでした。神様は私たちと共にいてくださるのです。

讚美歌 379

祈り 主よ。時に肉が弱っていても、みことばを読み、あなたのお約束が真実であることを知ること、霊は強められます。

イエス様のお名前によって。アーメン。

キャロリン・イェーツ  
アイダホ州、アモン

4月2日(金)

## 主の日

聖書朗読 詩篇 118:19~29

これは、主が設けられた日である。この日を楽しみ喜ぼう。

詩篇 118:24

「義の門」は救いの計画である福音を預言しています。使徒の働き4章11節でも触れられているように、捨てられた石が礎となる、という比喻はキリストの死と復活とを表しているのです。神のすばらしい働きによってのみこの奇跡が可能であると確信していたダビデは、その日をして「主が設けられた日」としたのです。

「その日」はキリストの時代、つまりイエス様が「義の門」を開いてくださった時代であると理解することもできるかもしれません。ほかにも、イエス様が十字架に付けられ、三日後に蘇られたイエス様の復活、週の初めの日、主の日であると理解することもできます。

毎週やってくる日曜日は、私たちがともに集い救い主の死を覚えるときであり、また、キリストが死を超え再び蘇った日であるのです。どんな時も神様が関わっていますが、その中でも日曜日は特別な時なのです。ユダヤ教の安息日をクリスチャンが覚えなくてはならないという制約はありません。しかしその特別な日とその日にあった事とを尊敬し、愛し、信じなくてはならないのです。

Every act of worship is its own justification.

It is rendering to God that of which he is worthy.

-Eric L. Mascall

礼拝を覚えることこそが価値あることです  
それこそが神様に捧げるに値するものなのです

讚美歌 Ⅱ191番 主のまことはくすしきかな

祈り 天にいますお父様。キリストの死を覚えるすばらしい日を私たちに与えてくださってありがとうございます。

イエス様のお名前を通して、アーメン。

デーヴィッド・R・ファー  
サウスカロライナ州 ロックヒル

4月3日(土)

## 神の近く

聖書朗読 詩篇 148

神に近づきなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。

ヤコブ 4:8

「以前よりも神様とあなたのために距離があるとしたら、誰が離れたのですか」という言葉を目にしたことはありますか。

もしあなたが神様から離れている、そして賛美、礼拝、感謝が足りないと感じるのなら、詩篇148篇が変化を与えてくれるかもしれません。

この詩篇は「ハレルヤ」という言葉で始まり、終わります。この詩篇で10回使われている「ほめたたえよ」という言葉には、神様の栄光に目を向けよという意味があります。太陽、月、星、山、丘、動物は神様が造られたそのままの存在であるゆえに神様をほめたたえるのです。

私たちが神様の関係は私たちの神様への賛美とお互い相関関係にあると言えます。しかし、他の創造物と違い、私たち人間は神様を賛美するか、またはしないかの選択肢を持っています。もしあなたが神様を賛美し、大いなる方とし、あがめていないのであれば、今すぐ、ゆっくり詩篇148篇を読み返してみてください。賛美は私たちの心を神様に向けさせます。賛美は私たちが神様を見失った時、神様の存在を気付かせてくれます。賛美は神の恵みを見て、それらの恵みを私たちが受ける扉を開きます。詩篇の作者は14節で主の民は主の近くにいと教えてくれています。神は離れません。あなたが他の創造物と共に神を賛美するとき、神に近づくことができますでしょう。

讃美歌 76

祈り お父様、私たちはあなたがあなたでおられることを賛美します。あなたの御名を良い技を、恵みを心の内から喜んで賛美いたします。

イエス様のお名前によって。アーメン。

サリー ジェーン シャンク

オクラホマ州 エドモンド

4月4日(日)

## 知恵は呼ぶ！

聖書朗読 箴言 1:20~33

幸いなことよ。主を恐れ、その仰せを大いに喜ぶ人は、

詩篇 112:1

知恵は私たちに助言を与え、ときには叱る女性として描かれています。彼女(箴言では知恵を擬人化して女性名詞として扱っている)が語る時、一部の人は耳を傾け、守られ安らかな道を歩みます。しかし、彼女の言葉を拒絶し、自分の道を歩むものは滅びます。もちろん、一番の知恵は神様から御言葉を通して与えられます。その他の知恵は私たちよりも先の道を歩む、両親、長老たち、伝道者、先生方から与えられます。

箴言は両方の知恵から学び、助言や戒めを受け成長することを勧めます。神様、周りの人、そして自分の過ちから学ばないものは、自身の浅はかな行いの結果を受ける運命にあります。

多くの人はどうすれば成長できるか知っていますが、変わることを嫌がります。自身のプライドを捨て、自分の過ちを認め、他者の助言を受け入れることを拒みます。知恵に耳を傾けることは、良い選手、良い学生、良い親、良い子ども、良い雇用者、そして何よりも良い神様の弟子になる助けとなります。多くの滅びるものは良い助言を受けながらもそれを拒絶し、受け入れなかった者です。

箴言は私たちに知恵に心を留め、心を傾けられるように謙虚であるようにと教えます。それは私たちが災いから救い、神を賛美すること助けるからです。

讃美歌 335

祈り 神様、私たちがあなたと周りの人の言葉に耳を傾けられるようにへりくだった心をください。そして、私たちが不十分であることを認め、あなたの知恵に従うことができますように。

イエス様のお名前によって。アーメン。

スタッフオード・ノース